

2017 日本水ロケットコンテスト和歌山大会

- 主 催：日本宇宙少年団 和歌山分団
共 催：一般財団法人リビングソーシャルプロジェクト・株式会社和歌山リビング新聞社
後 援：和歌山県教育委員会・和歌山市教育委員会・テレビ和歌山・和歌山放送・わかやま新報
協 賛：紀陽興産株式会社保険の相談室・株式会社サイコー・NPO 法人はまゆう和歌山・株式会社和歌山印刷所
協 力：公益財団法人日本宇宙少年団・和歌山マリーナシティ

日 時：平成 29 年 6 月 10 日（土）9：15～17：00
会 場：水ロケット製作／和歌県立桐蔭高校 会議室
打上（コンテスト）／マリーナシティ第 3 駐車場

毎年恒例行事となっている「日本水ロケットコンテスト和歌山大会」。今年で 8 回目を迎え、多くの参加者、保護者、スタッフが厳しい暑さの中、事故もなく無事終了しました。

一般参加者が 38 名、YAC 分団員 29 名、合計 67 名の子ども達。保護者約 120 名、スタッフとして桐蔭中学科学部 18 名、科学部顧問の藤木先生、桐蔭高校 3 年加納君、和歌山市立宮小学校科学部顧問の栗柳先生、弊社から 5 名がお手伝い。総勢 213 名で開催しました。

午前中は桐蔭高校科学部部長の加納君が昨年に引き続き水ロケットの製作をプロジェクターに基づきながら指導しました。一般の子ども達は小学 1 年生～3 年生が多く、お父さん・お母さんに協力してもらいながら製作しました。4 年生以上は自分の力で作り上げていましたが、分からないところは科学部のお兄さん・お姉さんに協力してもらっていました。

11 時半位には世界に一つしかないペットボトルロケットを完成させました。最後に全員で机周りのゴミ拾いを行い、子ども達と桐蔭中学科学部のみんな、藤木先生、栗柳先生も入って記念撮影を撮り終了しました。

午後からは会場を和歌山マリーナシティ第 3 駐車場に移動し、コンテストの準備。1 時 30 分～打上の説明と注意事項を伝え、コンテストがスタート。子ども達は自分で作った水ロケットに水を入れ、ランチャー（発射台）にセットし、自分でエアを入れて、5・4・3・2・1 の掛け声で発射！水しぶきをはきながら飛んでいく水ロケットを見て興奮していました。子ども同様に保護者の方も歓声を上げていました。一番遠くまで飛んだのは YAC 和歌山分団員の津村大地くん（小学 5 年生）の 100m でした。全員 2 回ずつ打上、最後に 1 位～3 位に入賞した子どもを表彰し、表彰状と副賞（図書券）を授与しました。

最後にけがや事故もなく無事終了することができました。この活動を通して子ども達の笑顔や「好奇心」「探究心」「匠の心」が見えたように思います。ご後援頂いた行政・企業・そしてご協賛賜りました企業へ厚くお礼申し上げます。また、これからも次世代の日本を担う青少年の人材育成・人格形成に力を注いでいきたいと思っております。



主催者挨拶 日本宇宙少年団和歌山分団竹原副分団長の挨拶



桐蔭高校正門前で案内看板



和歌山リビング新聞社のスタッフが受付を



参加者と保護者・桐蔭科学部と一緒に制作



自力で作る子どもたち！真剣勝負



お父さんやお母さんもお手伝い



桐蔭中学科学部の学生や副分団長も応援



製作が終了し、参加者と桐蔭中学科学部・藤木先生・栗柳先生との集合写真



打上準備！ 水ロケットをランチャー（発射台）にセット。いよいよコンテスト開始だ！



「5・4・3・2・1 発射」の掛け声と共に水しぶきをはきながら大空へ飛んでいく！



自作の水ロケットがどこまで飛ぶのだろう！



打上時の集合写真！



左から 2 位の小林忠爵くん (98.5m)、1 位の津村大地くん (100m)、3 位の武輪祐生くん (97.6m)

日本水ロケットコンテスト
和歌山大会
日本宇宙少年団 和歌山分団
株和歌山リビング新聞社

飛 距 離			
1位	津村 大地	記録	100
2位	小林 忠爵	記録	98.5
3位	武輪 祐生	記録	97.6

入賞者の結果発表です